

埼玉県立がんセンター医療廃棄物処理業務特記仕様書

この仕様書は、埼玉県立がんセンター医療廃棄物処理業務の概要を示すものであって、現場の状況に応じ、ここに記載されていない細部の事項についても誠意をもって行うものとする。

1 収集・運搬・計量・処理の方法

- (1) 受注者は、発注者が指定したがんセンター敷地内の廃棄物置場から、受注者の運搬車両（空車）に収集・運搬し計量後、処理するものとする。
- (2) 運搬車は原則として高さ 3.2 m 以下とし、法令に定められた方法により処理するものとする。その際、飛散・流出・悪臭発散することのないよう十分注意すること。
- (3) 受注者は、汚泥（発注者が持ち込む廃薬品）を、発注者の指定した日時に焼却処理するものとする。その際、焼却炉への投入を発注者が直接確認することができるようにする。
- (4) 発注者は、医療廃棄物の梱包については、飛散・流出のおそれのないようバイオハザードマークの付いた専用容器、ダンボールを使用することとし、受注者は医療廃棄物を焼却する場合は、梱包されたままの状態で行うものとする。

2 負担区分及び計量

- (1) 使用するマニフェストは、電子マニフェストとする。
- (2) 回収した医療廃棄物の処理重量は、受注者の計量器（トラックスケール等）で計量し、発注者に報告する。
- (3) 受注者は発注者に対して、処理重量を示すために使用する計量器（トラックスケール等）については、計量法に基づく定期検査等を合格していることを書面にて提出するものとする。
- (4) 医療廃棄物を受注者以外が計量し、処理重量を示す場合は、計量証明事業所による計量証明書を提出するものとする。

3 業務責任

受注者は、この業務の履行にあたり「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」等関係法令・「廃棄物処理法に基づく感染性廃棄物処理マニュアル」・「計量法」などを遵守し、これらに対する一切の責任を負わなければならない。